



伊藤青少年
育成奨学会

奨学会だより

vol.40

令和7年10月15日

年2回発行
(4月・10月)

高等学校等クラブ活動・地域振興活動

令和七年度

助成事業

伊藤青少年育成奨学会（公益財団法人、田代久美子理事長）は、過去最高額となる総額九千三百万円余の令和七年度高等学校等クラブ活動並びに地域振興活動への助成事業を決定。七月七日（月）午後二時から、可児市大森の（株）パローホールディングス研修センター「嫩葉舎」で贈呈式を開催した。

令和七年度助成事業への応募団体は、高等学校等助成に五十九校、百五十クラブ（内スポーツ系クラブ九十五、文化系クラブ五十五）、

助成申請額一億一千七百七十二万円、地域振興団体等三十団体、助

目録贈呈団体の紹介

高等学校等クラブ活動

岐阜県立恵那高等学校

ボート部

「女子シングル艇の購入に活用」

全国大会出場、同人賞を目指すレベルにあり、部員数も増加。地元恵那峡の花火大会や、恵那市が主催するボート体験教室などでのボランティア活動にも取り組んでいます。

成申請額三千七百八十四万円で、申請総額は一億五千五百五十六万円にのびりました。

二万円）、地域振興団体二千五百二十二万円で、総額は過去最高額の九千三百八万円です。

この中から、書類選考による厳正な審査の結果、高等学校等クラブ活動五十一校、九十クラブ（内スポーツ系六十、文化系三十）、地域振興団体等二十団体を令和七年度助成団体として選定。助成額は高等学校等クラブ活動六千七百八十六万円（内スポーツ系四千五百七十四万円、文化系二千二百十

贈呈式では、田代理事長から助成団体を代表して恵那高等学校ボート部 朝日庸介部長、可児工業高等学校機械システム部 植田悠斗部長、ひるがの獅子舞保存会 箕島高司会長に目録を贈呈、恵那高等学校ボート部の朝日部長が謝辞を述べました。

岐阜県立可児工業高等学校

機械システム部

「アームロボットの購入に活用」

昨年も若年者ものづくり競技大会で銅賞を獲得、全国ものづくりコンテスト



にも連続出場するなど、高い実績を有しており、また、中学生の一日入

学や、オープンキャンパス、地域イベントなどで「ものづくりの楽しさ」を発信しています。

地域振興活動

ひるがの獅子舞保存会

「演者の衣装の更新に活用」

ひるがの獅子舞は、旧荘川村の尾上郷地区で伝承されてきたものですが、御母衣ダムの建設によって尾上地区が消滅する際、これを譲り受けて保存継承していこう



と、分水嶺を挟んだ高鷺町の有志が保存会を立ち上げ、蛭ヶ野白山神社にて奉納。地域の連帯と振興の基盤となっています。

令和八年度奨学生 応募受付開始

未来へ挑め

令和8年度
奨学生応募受付開始



伊藤青少年育成奨学会
伊藤青少年育成奨学会
https://www.its-zaidan.or.jp

伊藤青少年育成奨学会は、「令和八年度 大学・大学院奨学生」の応募を、十一月二十一日から十二月二十日まで受け付けます。

応募方法の詳細は当奨学会ホームページに記載しています。「大学奨学生応募要項」「大学院奨学生応募要項」を確認してください。

〈助成事業の報告〉

多治見工業高校 機械工学研究部

顧問 長島 栄次

過去に助成していたいたいたエアロボやピコピカ水車は、小中学校への出前授業で使用しており、とても好評です。土岐市立濃南小学校では環境に対する授業を行い、ピコピカ水車の再生ペットの羽を高校生と小学生が共同で取付け、学校内の川に沈めて電気を作ります。本校デザイン科と小学生で考えたイルミネーションボードを、その電気で一ヶ月ほど照らし続けます。

今回助成のレーザー加工3Dプリンターも、生徒や小学生、中学生が工業に興味を持つきっかけになるように利用していきます。

令和七年度助成団体一覧

高等学校等クラブ活動

池田	男女バドミントン部
揖斐	硬式野球部
恵那	弓道部
	バスケットボール部
	ボート部
恵那農業	スケート部
大垣北	弓道部
	硬式野球部
	陸上競技部
	弓道部
大垣工業	バスケットボール部
	芸術部書道班
	電子機械部
大垣桜	器楽部
	なぎなた部
大垣商業	演劇部
	球技部
大垣特支	硬式野球部
大垣東	

で私たちチームに活力と希望が生まれました。支援していただいた物を大切に使って、これからも練習に励んでいきます！ 加菜

(令和五年度助成事業報告より)

「2025女子バレーボールU16アジア選手権大会」はアジアバレーボール連盟主催で十一月一日(土)から八日(土)にヨルダンのアンマンにて開催。

大垣南	フェンシング部
大垣養老	肥育研究班
	環境班きのこクラブ
各務原西	女子バドミントン部
	吹奏楽部
各務原	バドミントン部
	吹奏楽部
可児	化学技術部
可児工業	機械システム部
加茂	ボート部
	野球部
	演劇部
	(定時制)バドミントン部
加茂農林	男子バレーボール部
岐南工業	自転車競技部
	バレーボール部
岐阜	電子工学研究会
	軟式野球部
	柔道部
岐阜工業	バスケットボール部
	ボクシング部
岐阜高専	硬式野球部
岐阜城北	剣道部
	バレーボール部
岐阜女子	ダンス部
	演劇部
岐阜総合学園	硬式野球部
	弓道部
岐阜第一	ソフトテニス部
	男子硬式野球部
岐阜農林	電子機械部
	微生物サークルフロンティア

折々の思惟

緊急避難

伊藤青少年育成奨学会

理事長 田代 久美子

世界中の大災害の二割は日本で起きるという。そのような国で暮らす人間に送る話。

大震災の数年後にFテレビのKアナウンサーの現場体験記の文庫本を買った。手元に本が見当たらないので正確に再現できないが、そこにこんな記述があった。「現地入りして取材を続ける中で、老夫婦が自販機を壊しているのに遭遇する。『しかたないよね。食べる物もないんだもの』という誰に言うともない弁解めいた声を聴きながら、取材陣は息を呑み遠巻きにしてそれを見ているしかなかった。現実にはこういう行為もあったという事を、正直に書いておかねばいけないと思う」つまり美談ばかりではなく泥棒行為もあったというところに目をつむってはいけな

い、という文脈である。

いや、これは「盗み」ではなく法律上の「緊急避難」であろう。それだけでなく早い段階で災害地の自販機は無料になった。スーパーマーケットは経営者も肉親を亡くしながら、みんな食べる物に困るだろうと翌日から店を開け、全品百円で販売。便乗値上げもなく、日本中が無償で被災地を支えようとした。こんな話もあった。被災地の高台にあるコンビニエンスストアに、地震のあると近所の住民が予備の食料を買いに来た。その店主が「今から津波の被災者が買い物に来る。その人たちのために商品を残しておいてくれ」。皆もつともだと帰って行ったという。コンビニの主人にしてこの民度の高さである。

緊急避難などと小難しいことを言わずとも、飢えた人間を前にして、自販機の中身を取り出す手伝いをするのが大人の良識というものだろう。後に弁済手段を考えれば済む話なのである。

郡上

剣道部

男子バレーボール部

調理倶楽部

弓道部

ライフル射撃部

硬式野球部

放送部

硬式野球部

ラグビー部

電子機械部

ハンドボール部

弓道部

卓球部

陸上競技部

吹奏楽部

陸上競技部

機械工学研究部

吹奏楽部

和太鼓部

弓道部

バレエ部

ウエイトリフティング部

男子バスケットボール部

ウエイトリフティング部

演劇部

音楽部（吹奏楽部）

吹奏楽部

硬式野球部

演劇部

吹奏楽部

斐太

硬式野球部

弓道部

美術部

女子バレーボール部

スキー部

陸上競技部

書道部

自然科学部

地域振興活動

（一社）岐阜県私立幼稚園連合会

（一社）岐阜県ホッケー協会

（一社）自然育児森のわらべ多治見園

恵那神社

各務原剣道クラブ

各務原市軟式野球連盟

GINAN WRESTLING CLUB

岐阜県パラフェンシング協会

岐阜県ボーランド交流協会

岐阜シャイン

岐阜木曜クラブ

剣林館道場

茶室「山水亭」の保存事業

土岐市立土岐津中学校吹奏楽クラブ

中津川ジュニアアカヌークラブ

中津川ジュニアレスリングクラブ

ひるがの獅子舞保存会

武芸川ジュニア吹奏楽団

美濃加茂市弓道連盟

口ケツリースムエな推進協議会

第四回漱玉館杯争奪 女子学生選抜剣道大会



から五選手を選抜し、ゲストチームとの特別試合も行います。

武道場「漱玉館」は、当奨学会の創立二十周年を記念して、伝統文化の伝承に資することを目的として、令和三年九月に竣工。同十月から施設貸与

伊藤青少年育成奨学会は、第四回漱玉館杯争奪『女子学生選抜剣道大会』を、十一月二十二日(土)午前九時より、岐阜県可児市の武道場「漱玉館」にて開催します。

出場するのは当奨学会が選抜した日本体育大学、常葉大学、愛知大学、愛知学院大学、星城大学、中京大学、朝日大学、中部学院大学の女子剣道部。一チーム五人制で、二組各四チームによる予選リーグを行い、各組上位二チームによる決勝トーナメントで漱玉館杯を争います。

また、決勝トーナメント進出チーム

事業をスタートし、社会人や学生団体から青少年少女の団体にまで、クラブ活動や合宿練習などに地域を問わず広く活用されています。

第四回漱玉館杯争奪

『女子学生選抜剣道大会』

日時 令和七年十一月二十二日(土)

会場 「漱玉館」(可児市大森)

共催 公益財団法人 伊藤青少年育成

奨学会

株式会社バローホールディングス

多治見市剣道連盟

後援 岐阜県剣道連盟

奨学生頑張ってます

ノーベル賞受賞者が

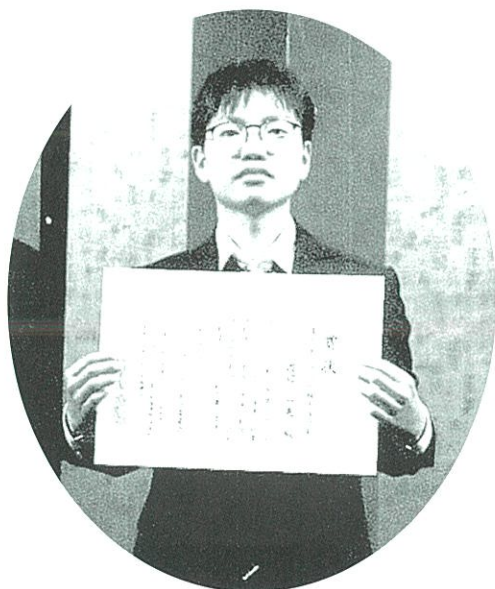
近くに

山口大学 工学部 電気電子工学科

三年 渡辺 一先

パテントコンテストに挑戦をして事前審査を通過し、なんと最終審査で優秀賞を受賞することができた。六百四十五件のうち六十件が事前審査を通過し、最終審査でさらに三十件まで絞られた。残念ながら特別賞(優秀賞の中から選ばれる)には選ばれなかった。

三月には東京で授賞式および受賞者交流会が行われ、受賞者交流会では提



示されたテーマについてグループごとにディベートを行い、私はグループの代表としてプレゼンを行った。これにはノーベル賞受賞者である吉野彰氏も参加しており、そのような場に参加できたのはとても価値のある経験になった。(発明の内容: 自転車サドルの水平角維持補助具 発明について特許出願を終えており査定待ち)

テレビ山口のMixという番組での取材が四月十五日に放送、五月一日にはFMきらら「ススめ!工学部」という、弊大学の工学部が枠を持っているラジオ番組にゲストとして出演。本年度もパテントコンテストに挑戦するつもりなので、今回こそは特別賞を獲得したい。

数学に囲まれた毎日

東北大学 理学部 数学科

二年 亀山 裕雅

数学科に入ってから変わった点で最もうれしいことは周りが全員数学好き同士であることです。私は進学前の学校で大学数学を独学する人が周りにおらず、一人周りに理解されない学問を学んでいました。今高度な数学の基礎を大学で学んでいますが一緒に学ぶ仲間がおり、数学でジョークを飛ばしあう日常がとても楽しく、充実したものとなっています。

数学科の人はおよそ各々好きな数学領域を持っており、まず代数学が好きなのは主に論理構造そのものの美しさ、構成がきまった世界の奥深さに魅了されています。解析学が好きなのは実数や複素数といった良い性質をもったものから得られる結果に魅力を感じています。幾何学が好きなのは視覚できないような図形も、複数の性質を抽出して組み合わせることで、パズルを解くように図形を認識することに惹きつけられています。基礎論が好きなのは数学をメタ的に数学することで論理の根底を調べることに魅入られています。

こういった人たちが集まると次のような会話が生じることがあります。

例1・A「夕方に集合な」B「集合、ってなに？」C「ZFC公理のモデルの元のこと」

例2・先生「でも有限ってことは2だから…」

例3・生徒「条件を満たさない複素数の実例として…」先生「実例って言葉面白いですね」生徒「確かに複素例っていうべきですね」

例4・(数学の宗教戦争) A「選択公理って自明でよくない？」B「いや選

離島での研究

名古屋大学大学院

理学研究科 理学専攻

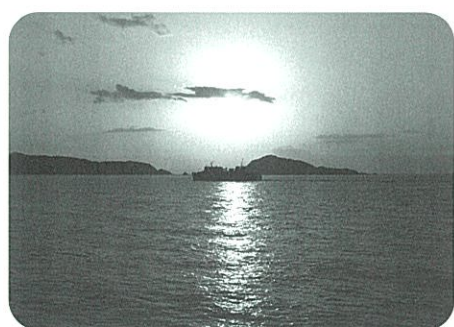
生命理学領域

二年 小河 華美

私が所属する研究所は離島に位置しており、私は研究所内の学生寮に住んでいます。島外へのアクセスが容易ではないので普段は研究中心の生活を送っています。周りの友人たちは「島で暮らして楽しいの？」と聞かれることがよくありますが、私と同じように学

択公理以前に背理法も認められないから」C「やっぱKan拡張だよ」等々。

数学は斬新な視点やアイデアの積み重ねであり、この視点・アイデアが別の物事に適応できるのか、数学科ではよく考えています。このような思考法が身につくからこそ、好きな数学領域や先の会話が生じており、数学自体のモチベーションとなっているのだと思います。これからもこの素晴らしい数学仲間とともに数学を学び、探求していきたいです。



生寮に住む学生たちはそれぞれ自然に囲まれてゆったりと自分の時間を楽しんでいます。星空観察を

したり、鳥のさえずりや波の音に耳をすませたり、素敵な場所で暮らしているなど感じる場面が多くあります。

島での暮らしを始めてから、「自分の手で作る」ことを楽しむ時間が増えてきました。その一つが家庭菜園です。

毎年夏にプランターで野菜を育てています。この冬、新しい試みとしてチューリップを植えてみました。冬に球根を植えてからおよそ半年間、成長を見守り続けてこの春にやっと綺麗な花を咲かせました。最初はうまくいくか不安でしたが、毎日少しずつ成長していく姿を見ていたのでとても嬉しかったです。これから暑い夏がやってきますが、次は何を植えようか考えているところです。

また、最近はお菓子作りやパン作りにも挑戦しています。こうした「作る」時間は、自分自身と向き合うきっかけになっています。目に見える成果がすぐに得られるわけではありませんが、手を動かし、工夫を重ねながら形にしていくなかで、焦らずに丁寧に日々を過ごす大切さが詰まっているように感じます。日々の忙しさの中で忘れがちな小さな変化や気持ちの動きに気づけるようになったように思います。このような生活はしばらく続きますが、自分らしく過ごしていきたいと思っています。

奨学生頑張っています

最先端医療で希望を

名古屋大学 医学部

保健学科 放射線技術科学専攻

四年 小木曾 陽和

私は核医学治療についての研究をしたいと考えています。核医学治療とは、体の特定の部分に集まる放射線医療品を体に投与し、体内で病変の周囲にのみ放射線を発生させることで、癌細胞を死滅させる治療法です。日本では放射線に対して不安を感じる人も多いですが、海外では驚くような治療成績も発表されています。私はその中でも、これまで治療が難しかった種類の癌に効くと近年世界中で注目を集め、さらに一昨年から日本でも保険適応となったルタテラという薬品を用いた治療について研究をします。実際に治療された患者さんのデータから、どのような患者さんに治療効果があるか研究します。結果が得られれば非常に有意義な研究になると考えています。

私はがんと闘う患者さんの希望となるような治療の研究に携わりたい

という想いをもって、この進路を選びました。半年前から研究室に配属されて、研究活動が始まろうとする中で、その思い、初心を忘れないようにしたいと思い、エッセイ「核医学治療のさらなる進歩に期待して」をかきました。そのエッセイは、地元恵那市の第二十二回下田歌子賞で優秀賞をいただきました。地元の公募賞で、このような賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。このエッセイに綴った志に恥じない努力を重ねていきたいと思っています。

良き医療者を目指す

岐阜医療科学大学大学院

助産学専攻科

一年 林 心菜

現在私は、助産学専攻科で七月からの実習に向けて学内で基礎知識をつけている。中には社会人として働き、子どもを産んだ経験から助産師に憧れて入学した人や、看護師として四、五年働いてから入学した人も

いる。以前、奨学会だよりに私が看護生であった頃に書いた文章を載せていただいたことがある。その時は、看護学部内での選抜制の保健師コースに入れるか入れないかのところであつた。しかし、現在は看護師、保健師の国家試験に無事合格し、さらに助産学専攻科に進んでいる。あの頃の私が知ったら、どれだけ嬉しくて、驚くことだろうと思う。何事も言葉にして諦めなければ、なりたいうものになれるのだと実感した。諦めず努力し続けて本当に良かったと思う。私が頑張り続けられたのは、いつも支えてくれる友人や家族、また支援して下さる伊藤青少年育成奨学会のおかげであると思っており、本当に感謝している。助産学生として一年は始まったばかりであるが、これから最初を忘れず、常に向上心を持ち、良き医療者となれるよう学び続け、成長し続けていきたいと思う。

先日、助産学に進学し、初めての分娩見学をさせていただいた。学内の講義だけではわからないところや全体のイメージを掴むことができた。率直な感想として、生命の誕生は素

晴らしいと思った。陣痛が来る間、とても辛そうにしていたお母さんが、赤ちゃんが生まれて泣いた瞬間、嬉しそうで、ホッとした様子で、幸せそうに、涙を流している姿を見て、私には理解しきれないほどの様々な思いが溢れているのだらうなと思った。自分もこんなふうになんて生まれてきたのだなと思うと、お母さんに感謝したいと思った。また、全てのお母さんは本当に強く、尊敬すべきであると思った。また、お母さんは陣痛が来ると、入院してから何時間も陣痛を乗り越え、生み終わってからも胎盤娩出、会陰裂傷の縫合、後陣痛を乗り越え、育児と向き合っていく必要がある。とても長い間の苦しい時間を、ご家族の立ち合いがあったとしても一人で乗り越えている。その中で常にそばにいる助産師だからこそ、できること、寄り添えることがたくさんあると思う。お産は常に何が起るかわからず、臨機応変に対応する冷静さ、知識が求められる。私の目指す、どのようなお産にも対応できる助産師になるために、より専門的な知識や技術を身につけていきたい。



公益財団法人

伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1
株式会社パローホールディングス本体内
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認願います。
<https://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 新日本印刷株式会社